



平成30年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）  
 「認知症介護従事者に対する研修の効果的な実施方法及び評価に関する調査研究事業」

## 認知症介護実践研修における効果的な自己学習教材の開発

### 目的

本事業は、認知症介護従事者が自ら学習しやすい教材を開発し、効果的な認知症介護研修のあり方を明らかにするため以下の2点を目的に実施されました。

- ① 認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修におけるeラーニング学習用コンテンツの検討
- ② eラーニングを導入した認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修体制の検討

### 概要

#### 主な事業内容

- 検討委員会の開催（専門家等15名による3回の検討委員会を実施）
- 作業部会の開催（専門家等6名による5回の作業部会を実施）
- 認知症介護実践者研修および実践リーダー研修の講義方法に関する調査の実施  
 青森県、岩手県、秋田県、福島県、東京都の認知症介護研修の講義状況について訪問調査を実施しました。
- eラーニングコンテンツシナリオ案の作製  
 「認知症の人への介護技術Ⅱ（行動・心理症状）」  
 「認知症ケアの倫理」「認知症の人の理解と対応」  
 「認知症の専門的理解」「職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅰ（運用法）」「職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅱ（技法）」の6科目について映像や音声データによる事例素材を多用した自己学習教材のシナリオ案を作製しました。
- eラーニング導入による研修形態の検討  
 eラーニング学習と集合学習をブレンドした新たな認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修の形態を検討しました。

図1 eラーニング画面例

画面	ナレーション
<p>「安静が必要だが、歩きたがるAさん」</p> <p>あなたなら、どちらの対応がよいと思いますか？</p>  <p>Aさんの気持ちを尊重して、できるだけ足に負担がかからないように見守りながら歩いてもらう</p> <p>動いてしまうと骨折が治りにくくなって歩くことが難しくなるので、Aさんに説明しながら、勝手に歩かないように短期間だけ重いず固定する</p>	<p>【事例概要・ビデオ音声】</p> <p>アルツハイマー型認知症のAさん（72歳、女性）は、左大腿部を骨折し入院しましたが、医師より安静を条件に退院し、介護福祉士施設に入所しました。</p> <p>Aさんは骨折のことをあまり理解しておらず、「歩きたい」と言って自由に歩こうとします。</p>

図2 事前学習方法の自由選択化



### 主な結果・成果

#### 【eラーニングコンテンツシナリオの特徴】 図1

学習者が日常体験している認知症ケアの事例を動画素材とし、「事例提示→問いかけ→解答→事例に基づく解答の解説→一般知識や理論の解説」という流れを原則に、知識や理論を体験事例に類似した事例課題で、双方向的、能動的に理解できるような構成にした。

#### 【事前学習方法を自由選択制にした研修方法】 図2

受講者負担の軽減、eラーニング受講環境の未整備、不正受講等の課題を解消し、受講者個別の学習課題に応じた効果的な研修方法として、研修受講前の学習方法をDVD視聴、テキスト学習、eラーニング学習等から自由に選択し、集合学習受講時に知識確認課題を設け、一定の知識を受講条件とする方法を検討した。

#### 【今後の課題と人材育成の方向性】

・今後の人材育成には、eラーニング学習の効果検証と事前学習と連動した集合学習の効果的な方法を検討した上で、学習内容を個別化し、ICT等を活用した自己学習環境（OJL）を確立することが必要である。

### 成果物

- 研究事業報告書：調査協力自治体、関係者に送付するとともに、当センターウェブサイトに掲載。





平成30年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）  
 「認知症カフェを活用した高齢者の社会参加促進に関する調査研究事業」

## 認知症カフェの継続と設置促進のためのガイドブック作成

### 目的

本研究事業では、地域で展開される認知症カフェの継続や、未実施の自治体において新たな認知症カフェの設置促進を目的にリーフレットと事例集を作成しました。

### 概要

#### 主な事業内容

- 過去の調査結果の再分析（H28老人保健事業及び国の状況調査結果の整理・再分析）
  - 有識者による委員会での検討（委員会2回、作業部会1回を開催）
- これらより、認知症カフェについて以下の点が明らかになりました。

- 課題1：人口が少ない自治体は設置率が低い
- 課題2：高齢化率が高い自治体は設置率が低い
- 課題3：人口規模別による課題
- 課題4：継続の課題は認知症の人への周知による継続不安

#### 主な結果・成果

#### 1. 違和感を覚える方または診断直後の一般市民向けリーフレット「私たちの認知症カフェ」

診断直後の空白の期間により身近なところで専門職と出会うことを促進するための認知症カフェを、簡単に理解できるリーフレットを作成しました。医療機関において診断直後もしくは違和感を覚える本人・家族に、専門職が直接手渡し認知症カフェにつなげることを目指しています。

#### 2. 認知症カフェの企画運営者向けの事例集「よくわかる！地域が広がる認知症カフェ」

認知症カフェの新規設置、継続に役立つ自治体の設置規模別に整理した事例集を作成しました。

事例は19事例掲載されており、以下の様に分類されています。

- ①地域住民との協働で継続している認知症カフェ
- ②アクセスがあまり良くない地域で運営する認知症カフェ
- ③人口が少なく高齢化率が高い地域で運営する認知症カフェ
- ④都市部で集合住宅が多くある地域で運営するカフェ
- ⑤施設でも地域と連携して運営する認知症カフェ
- ⑥若年性認知症の人のカフェ

#### 「私たちの認知症カフェ」



仕様：A4カラー 4ページ  
 （配布先：認知症に関わる医療機関、行政担当窓口等）

#### 「よくわかる！地域が広がる認知症カフェ」



仕様：A4カラー 95ページ  
 （配布先：都道府県・市町村自治体担当者、地域包括支援センター等）

### 成果物

- 研究事業報告書：全国の都道府県、関係団体に送付するとともに、当センターウェブサイトに掲載。





平成30年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）  
 「認知症の人の家族等介護者への効果的な支援のあり方に関する研究事業」

## 認知症の人とご家族の空白の期間を解消するための冊子作成

### 目的

本研究事業は、認知症の人を介護する家族が直面する課題である認知症の疑いから何らかの支援に結び付くまでの期間、および認知症の診断直後において、専門職と早期に繋がり充実した支援に結び付くことを促進するための冊子を作成することが目的です。

### 概要

#### 主な事業内容

- 全国の認知症疾患医療センターを対象にした質問紙調査の実施  
 認知症疾患医療センター（基幹型、地域型、連携型）に勤務する相談担当職員。方法は、郵送による質問紙調査で配布430件、回収181件、回収率42.1%でした。これにより、診断後支援の好事例を集めQ&A方式の事例集を作成しました。
- 諸外国の早期支援に関する文献調査
- 委員会の開催により早期支援のあり方の検討

#### 主な結果・成果

#### 1. 早期支援につながることを促進を目的にした市民向け冊子 「もしも気になるようでしたらお読みください」

認知症という言葉に抵抗がある本人や家族も、思わず手に取り開きたくなること、読み進めるにつれて認知症への偏見が和らぐこと、読みやすくシンプル、そして汎用性が高く読むことで早期に専門機関に繋がることを目指した冊子を作成しました。諸外国の文献、冊子などを読み込み、日本に適応させました。

#### 2. 診断後支援のための専門職向け事例集

#### 「Q&Aでわかる診断後の認知症の人とご家族の支援方法」

認知症疾患医療センターにおける支援事例集。違和感を覚える人もしくは診断直後に困惑する本人や家族の空白の期間を解消するための支援に役立つ冊子を調査結果から作成しました。

1. なぜ、診断後の家族支援が必要なのでしょう
2. 診断後の支援方法があるのでしょうか
3. Q&Aでわかる診断後の家族支援(9事例)
4. 認知症疾患医療センターにおける家族支援終結の考え方

#### 「もしも気になるようでしたらお読みください」



仕様: B5カラー 45ページ  
 (配布先: 都道府・市町村自治体、地域包括支援センター他関係機関)

#### 「Q&Aでわかる診断後の認知症の人とご家族の支援方法」



仕様: A4版2色刷り、35ページ  
 (配布先: 認知症疾患医療センター他関係機関)

### 成果物

○研究事業報告書: 全国の都道府県、関係団体に送付するとともに、当センターウェブサイトに掲載。

